

8/24産教審答申を受け 8/27教育委員会開き方向出す

# 統廃合のとばっちり 長浜高の福祉学科 廃止か？

長浜高校の福祉学科がなくなる？

産業教育審議会は先月わずか3回の議論をして、24日にこの重大な答申を県教育長に提出しました。県教委は24日金曜日に答申を受け月曜日8/27には教育委員会を開催し、答申を委員に了承させています。この異例とも言える窮屈な日程は何を物語るのでしょうか。



なぜ突然、福祉学科廃止なのか？ 長北との統合のためなら何でもする

答申を受け教育長は「統合校について、普通科単独校にという地元の声も聞いている。今回の答申も踏まえ、検討したい」(京都新聞8/25付け)と述べています。進学校をつくれ、という声は確かにありました。しかし湖北の住民は「虎姫高校もあるのになぜ？」「進学校ばかりではうちの子はどこへ行ったらいいの？」と冷ややかな反応でした。それを教育長はどう曲解したのか、地元で普通科「単独校」をつくれという声があると……。しかも、自らが指示して福祉学科をなくす検討を急遽産教審にさせておいて、「答申を踏まえ、検討したい」とは何と白々しい。

教育長は「高校再編計画を9月に出したい」と言っていました。その9月に間に合わせるために、今回の茶番を仕組んだのではないのでしょうか。なぜ急に福祉学科廃止なのか、「長浜北高を長浜高に統合するためには、長浜高に教室が足りない」「増築するには金がかかる」「福祉棟の一部を普通教室に変えよう」「普通科単独校という声があることにしよう」「福祉学科の問題点を洗い出せ」というシナリオで動いていると思われます。

統廃合の道具にされた産教審

県の審議会は頻繁に開くときでも月1回が通常のペースと想像できますが、今回の産教審は7/31、8/3、8/7と8日間で3回。審議委員が様々調査して熟考し議論する時間的余裕は全くありません。そのわずか3回で「福祉学科をなくす方向」という大転換を決定したのです。

しかも2年前の産教審でも同校の福祉学科について議論がなされ、その答申で「(介護福祉士の)養成校として更なる充実を図ることがのぞまれます」と今回と全く正反対の答申を出しているのです。

審議委員は果たしてこの重要性を理解しているのか、県教委事務局のお膳立てしたスケジュールを単に了承しただけなのか。県教委は長浜北高と長浜高の統廃合のために、このような姑息な手段まで弄して、大事な福祉学科を切り捨てようとしています。県民に受け入れられるわけがありません。

介護福祉士の養成から撤退 = 県の福祉行政の後退

県内の介護福祉士養成学校の合計定員は180人です。長浜高校40人の他、短大60人、専門学校40人、私立高校40人です。この180人という定員は、滋賀県の65歳以上人口に対する比率で言えば全国で41位(47都道府県中)、もし長浜高福祉学科を廃止し140人定員になったら46位になります。しかも全国で介護福祉士養成の高校がない都道府県は、一つもありません。

長浜高校は前年実績では、介護福祉士の国家資格の試験に受験37人全員が合格しました。全国平均の50%合格に比べても極めて優秀です。県教委はこの実績ある福祉学科をなくし、福祉コースにする方向と思われます。県内には福祉コースを持つ高校がいくつかありますが、コースの場合、受講単位数が少ないため介護福祉士の養成は全くできません。

高齢者人口が今後も増え続ける状況の中で、介護福祉士の需要はますます高まっていく傾向です。それなのに県の養成機関としての定員をゼロにしてしまうとは、県の福祉行政はどうなっているのでしょうか。

ストップ高校統廃合速報 2012年度第16号

2012/9/4 県立高校の統廃合を考える会

077-522-4965 FAX 077-522-4978

(掲示・増し刷り・回覧などで全教職員にお知らせください)